

4 月 17 日 (日) に行われた平成 28 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データの分析をもとに、システム監査技術者試験の合格発表コメントをお知らせします。

■システム監査技術者試験 (AU)

[平成 28 年春期のシステム監査技術者試験 統計情報]

応募者	3,635 人
受験者	2,524 人
合格者	360 人
合格率	14.3%

平成 28 年春期のシステム監査技術者試験の合格率は 14.3%で、例年の合格率に近い結果となりました。まず始めに、新試験で従来の午前試験が分割された午前 I と午前 II の試験の分析結果をお知らせします。

(午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

・高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれています。これまで、AP の問題の中でも比較的素直で常識的な問題が選ばれていましたが、基礎理論の計算問題が例年どおり少し難しく、他の分野もこれまであまり出題されていない内容が何問かありました。

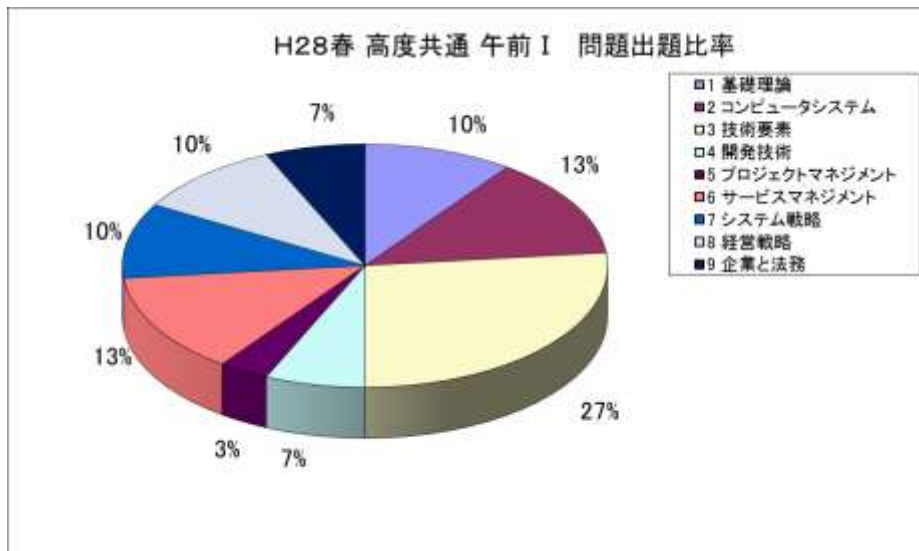
- ・過去問題の比率は約 6 割で従来どおりの比率といえます。
- ・分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類からまんべんなく出題されていますが、重要な内容 (中分類) からは複数出題されています。現在はセキュリティ分野を重視した出題になっており、出題数は前回と同じ 4 問でした。
- ・新傾向問題は次の 2 問で、従来よりも少ないといえます。

(新傾向問題)

問 5 ライブマイグレーションの概念

問 21 クラウドサービス導入検討プロセスのシステム監査

平成 28 年春期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率

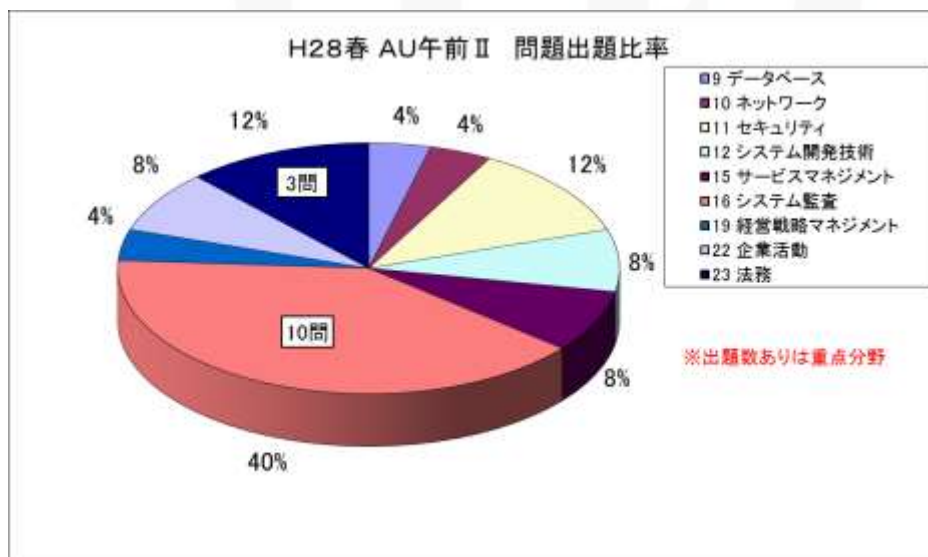


(午前 II の専門知識問題)

監査の専門分野からの出題数は 10 問で、前回の 12 問から減りましたが、セキュリティと法務の問題が 1 問ずつ増えました。

システム監査の事例では、ネットワークやセキュリティの技術を理解している必要があるものが多いので、不足している知識については、日頃から知識を身につけていく必要があります。

平成 28 年春期のシステム監査技術者試験 午前 II 問題出題比率



過去のシステム監査技術試験問題の出題は 9 問ありました (前回 12 問)。また、新傾向問題としては、次の 2 問がありました。

問 7 JIS Q 19011 : 2012 における第三者監査

問 14 機密情報を扱う担当従業員の扱い

次に、午後 I と午後 II 試験の分析結果をお知らせします。

〔午後問題〕

・午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは次のとおりです。今回の試験問題で事例を理解するのに技術知識が必要なものはありませんでした。なお、前々回の試験から、午後Ⅰ試験の出題数が4問から3問に減り、選択の幅が狭くなりました。

- 問1 情報セキュリティインシデント対応状況の監査（インターネットサービス企業） 普通～やや難
 セキュリティインシデント対応、CSIRT 対応状況の監査、トリアージ困難の判断理由、監査人のグループ会社連携対策、インシデントハンドリング、外部連携不備による影響
- 問2 システムの移行判定の監査（クレジットカード会社のシステム統合） 普通～やや難
 統合スケジュール、顧客影響、中間移行判定後の監査、監査手続での確認事項、閲覧した資料、最終移行判定前の監査、監査目的、必要な判定手続（資料、確認事項）、指摘事項
- 問3 プロジェクト管理の監査（公共外郭団体の新基幹システム開発） 普通
 PJの体制と管理基準、システム監査計画、監査結果、必要な監査手続、把握した課題、監査報告、考えたリスク、フォローアップ確認内容、設計と開発が異なる会社での確認内容

・午後Ⅱ問題の出題分野とテーマは次のとおりです。問1は情報システム投資に関する久しぶりの出題で、問2の品質管理と合わせて、設問自体はオーソドックスな内容でした。なお、問1の設問ウの問題文は5行あり（従来3行）、初めての長文でした。

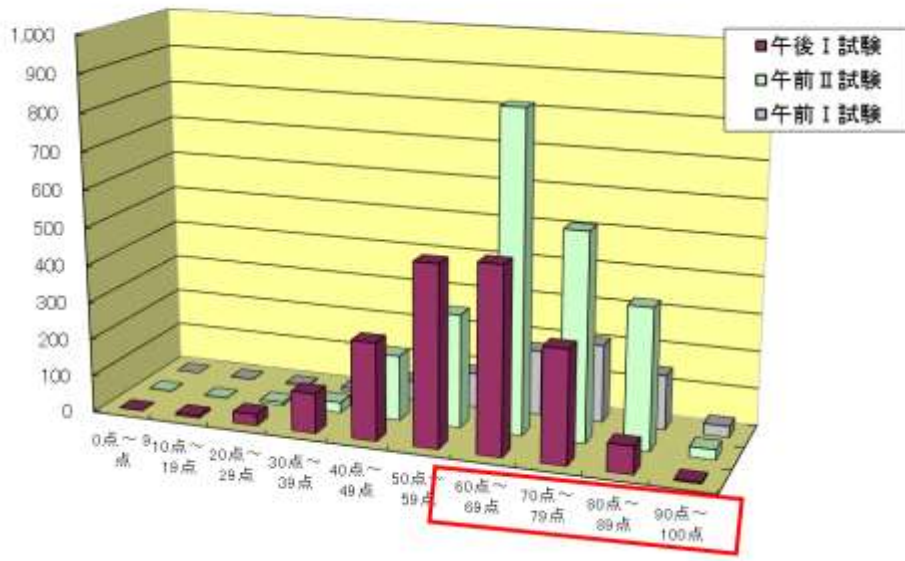
- 問1 情報システム投資の管理に関する監査について
 システム投資の決定体制と手続、具体的な投資目的と期待効果、適切に投資が実施されたか確認する監査手続、運用段階で目的・期待効果の達成・維持が損なわれるリスク、リスク対応策を実施できるための投資管理を確認する監査手続
- 問2 情報システムの設計・開発段階における品質管理に関する監査について
 システムの概要、重要と考える品質内容、品質確保できない場合のサービス・業務への影響、設計・開発段階で品質確保されなくなる要因、必要なコントロール、品質管理の適切性を確認する監査手続、監査証拠、確認ポイント

〔平成28年春 システム監査技術者試験 スコア分布〕

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	0	1	1	D	100
10点～19点	1	1	7		
20点～29点	2	8	31	C	147
30点～39点	9	28	107		
40点～49点	49	175	261	B	258
50点～59点	92	303	481		
60点～69点	174	848	495	A	360
70点～79点	208	552	300		
80点～89点	146	374	74		
90点～100点	30	27	4		
計	711	2,317	1,761		
対前試験比率		325.9%	76.0%	49.1%	41.6%
午前免除者（概数）	1,813	71.8%			

合格者数	360	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	558	78.5%	198
午前Ⅱ60点以上合計	1,801	77.7%	1,441
午後Ⅰ60点以上合計	873	49.6%	513
午後Ⅱ-A評価	360	41.6%	0

平成28年春 システム監査技術者試験 得点分布



新試験制度で春期の試験で午前 I 試験免除になった人がたくさん出ましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 1,813 人 (71.8%) おり、7 割の人が午前 II からの受験となりました。

得点分布を分析してみると、高度系共通の午前 I 試験で基準点 (60 点) 以上の人は 558 人 (受験者の 78.5%) で、この結果は前回の 76.7% に比べてさらに高くなっています。問題自体の難易度はあまり変わらないので、午前 I 試験対策がしっかり行われた結果と考えてよいと思います。また、午前 II 試験で基準点以上の人は 1,801 人 (受験者の 77.7%) でした。前回は 90.2% と非常に高く、今回の問題は前年に比べるとやや難しい内容だったといえます。

午後 I で基準点 (60 点) 以上の得点者は 49.6% で、前回の平成 27 年春試験の 42.7% からかなり増えています。また、午後 II で合格点の A 評価だった人は 41.6% で、昨年の 42.2% とほぼ同じ結果でした。

午後の試験で合格スコアに至らなかった方は、次回試験の対策として、専門知識分野で「午前試験で出題される知識の理解度をまず上げる」、その次に、「午後試験で必要とされている知識を題材として、さらに深く学習する」のがよいでしょう。

高度系試験は午後試験対策が合格の鍵を握っています。次回の試験対策は早めに始めてください。

(今回合格された人)

今回見事合格された方で、16 秋期試験で情報セキュリティスペシャリスト・ネットワークスペシャリスト・IT ストラテジスト・システムアーキテクト・IT サービスマネージャの試験合格を目指す方は、午前Ⅰ試験は免除になりますので、午前Ⅱの専門分野知識について、なるべく早く試験対策を開始してください。まずは各試験の専門分野の基本的な問題（応用情報技術者試験の問題）から解いてみましょう。

高度系種別を受験するにあたっては、出題範囲を網羅した通信教育の『スタンダード午前Ⅰ免除コース』がおすすめです。基礎から段階的に知識の積み上げを行いたい方には「書籍」「WEB教材」「WEB テスト」「公開模試」の合格のために必要な知識を体系立てて身に付けることが可能なコース学習『スタンダードコース』がおすすめです。

その他、学習にあたっては、午前試験対策に重点をおいた『宿題メール』。午後試験対策には、受験対策のプロ講師から直接学べる『合格ゼミ 午後試験対策セミナー』など、学習アイテムを豊富に取り揃えております。午前Ⅰが免除になり、かつこれまでの学習で身に着けた知識が鮮明なうちに次の資格試験にチャレンジすることが、合格への近道です。次のステップアップを目指しましょう。

(今回残念ながら不合格だった人)

まず、午前Ⅰの試験で 50 点に満たなかった人は、自分がよく理解していない内容について早めの学習が重要です。時間のない方は、「応用情報・高度共通 午前試験対策」の書籍を活用し出題ポイントと必須問題で効率的に学習を進めましょう。

今回の午前Ⅰ・Ⅱ試験の得点が 50 点～59 点だった方は、合格ラインまで“あと一歩”のところまで実力がついていきますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。

午後試験の得点が 60 点未満だった方は、まず午前Ⅱの「専門知識」の内容に関して、試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受験するなど、本番を想定した学習を行うのも効果的です。

再受験のための学習にあたっては、弱点補強中心に学習を行いたい方やすでに教材をお持ちの方はトレーニング問題とポイント解説、午後の音声講義によるポイント解説などの充実したコンテンツの『プラクティスコース』、講師から直接指導を受けることでその場で自身の弱点分野を把握、克服ができる『合格ゼミ 午後試験対策セミナー』がおすすめです。

その他、各種豊富な学習メニューを用意しております。

次回の試験から、情報セキュリティ分野について、午前試験では出題比率がさらに高まり、午後試験ではセキュリティ問題が必須になります。不足している分野の知識に加えて、セキュリティ知識の重点的な対策にコース教材を活用してしっかり補強し、次回合格を勝ち取りましょう。2016 年秋期試験対策の新しい書籍や研修案内については弊社のホームページからご覧ください。

<http://www.itec.co.jp>